

奥秩父(両神)/広河原沢左岸「重石」(通称ワフー)側稜東壁

2026/3/28

ナベ(記)・丸山

10:30 林道上野大滝線ゲート前P 11:05 林道(重石下) 11:30 登攀開始 16:15
4P目終了点 17:30 ピーク前のコルから下降開始 18:05 ワフー沢到着 18:35 林
道 19:00 駐車場

林道ゲート前に駐車し徒歩約30分で重石下の擁壁。奥の切れ目から上がって、右手の植林を上る。やがて植林は右手から来た岩尾根に吸収されるので、そのまま岩尾根を登ると岩壁基部に出る。キラキラ光る平山ハンガーが残置されたラインもある。我々はピンクテープがはためく立木の生えている顕著なリッジライン(2025年7月の当会メンバー登攀ライン)の左手から合流する感じで登ることとする。

1P目 ナベ 10m 3+級

10メートルほど登って手首より細いくらいの立木でランナーを取り草付きを2メートルほど登りバンド状に上がると、思ったより傾斜が強いスラブ。直径50センチくらいのクレーターみたいな穴まで3メートルくらい登り、なんとなくバンド状になっている草付きや岩を右上トラバースしようと試みるが何にも支点が取れないため一旦撤退。ランナーを取った立木に戻り、支点強化してビレイする。

2P目 丸山→ナベ 50m 4+級

丸ちゃんに交代し行ってもらおうが同じ所で躊躇しているの、再度交代してもらい、電ドリでボルトを打つことにした。

今回用意したのはマキタの振動ドリルと、10.5ミリのドリルビット、それにm10のオールアンカー(ステンレス)。なぜ今時のウェッジアンカーにしないかと言うと、脆い岩にはオールアンカーの方が効きそうだし、何よりオールアンカーは下穴に差し込んでから芯棒を打ち込むので、理論上は片手で打てる。

片手でドリリング→片手で掃除→片手でオールアンカーを差し込む→片手でハンマーを振るう→片手でナットを締める。

こういう皮算用だったのだが...下穴がなかなか開かない!振動ドリルで穴が開けれること自体は硯岩で試しており(10ミリ)、こんなはずでは...10.5ミリを開けるにはパワー不足なのか?踏ん張ってドリリングするので物凄く疲れる。2.5センチほど穴を開けたところで違和感を感じて足元を見ると、乗ってるイワヒバ(通称「菊」)の草付きが剥離しかけている。オイオイ!

やむを得ずオールアンカーを差し込み浅打でキメる。岩とナットの間でハンガーが動いてしまう。コレで行くのか~とそこから2メートル位を何度も行きつ戻りつするが、ボルトを打った以上行くしかない突っ込む。右上の草付きにマントルして何とか安定した草付きバンドに上がるが、ここからまだ顕著な凹状まで少しある。もう一発ドリリング。もう踏ん張る足が痛く、今度も浅打気味でハンガーが回ってしまうが一応ほぼ岩とナットで金物を挟めており、さっきよりはマシ。勇気百倍で登り凹角に入ると安定したクラックがあったが残念ながらカムは丸ちゃんに預けていたため無視、立木でランニングを取り安心。そのまま緩い凹角を右上しピンクテープのある極太立木の手前の、太ももくらいの立木でロープいっぱいとなりビレイ。

丸ちゃんを迎え、そのまま5mほど登ってもらいリッジに移る。

3P目 20メートル 丸山 3+級

ここからは2025年7月のラインと合流。あまりランニングは取れないが、適度な傾斜と意外な岩の硬さで快適なピッチ。途中にRCCボルトや残置ハーケンがあるが丸ちゃんは残置無視。狭いテラスにある太い立木でハンギング気味にビレイ(ハンギングしないとゼロピンの位置が悪いため)

4P 35メートル 丸山 5級 R

今回トップ用の軽いザックと、セカンド用の重いザックを作ってきたが、明らかな強傾斜を見て、セカンドがザック二つ担当することにして丸ちゃんは空身で左上開始。10メートル近くノーピンで登るとリングボルトを発見したというので、残置無視しないで〜！と叫びクリップしてもらおう。そこから3メートル位登った所で苦労してプロテクションをキメた後強傾斜帯を突破。しばらくして解除の声があり、ロープアップ中こぶし大の岩が2つくらい落ちてきてビビる。

フォローはザック1個を背負い、もうひとつはスリングで股の間にぶら下げるスタイルでフォロー。傾斜は強いが、岩は硬く、また、信じて立つとカチやガバがある。が、とにかくプロテクションを取れそうな所がない。最弱点を縫って左上していくとリングボルト。そこから直上すると丸ちゃんがキメたボールナッツとハーケンだが、ボールナッツを決めているフレイクは浮いているので気休めにしかならない。ハーケンは、一体ここでどうやって両手離して打ったのかと思いながら、何とかテンションを掛けずに回収。こちらはまあまあ効いていた。フォローなので思い切って登れる。やがてボロそうな小ハング帯に当たるので右上。ハング基部に赤キャメをキメていたがなぜか岩が異常に粉を吹いており、落ちたらスッポ抜けそう(抜けなくても岩が壊れそうだが)。簡単だが神経を使うボロゾーンを右上し一旦稜上に出て、2メートル位左にある立木で丸ちゃんと合流。

ダブルザックでもフォローとは言えフリーで登れたのでグレードとしては5級くらいなんだろうけど、この傾斜でこのプアプロはヤバイ。

一ノ倉の烏帽子南稜最終ピッチから残置撤去したらこんな感じかも知れない。そう考えると「アルパインクライミング」的には素晴らしい状態ではある。コエーけど。

5~6P 各 50m 3級

高度感はあるが簡単な岩稜2ピッチで主稜と合流。主稜との間にある沢から巨木の枝が稜上に伸びてきていて若干鬱陶しいが、なかなか写真映えするナイス岩稜だ。

以降は一カ所岩場が出てくるが、基本ヤブ岩歩き。偽ピークが何個も出てきて疲れる。2025年7月の記録ではピークを越えてコルからワフー沢にラッペルしているが、かったるかったのでピーク(と思われるもの、なかなか立派な岩壁を擁していた)前のコルから少し下って、急になってきた所でラッペル2回+クライムダウン5メートルで沢底に降り(木はあるので全部ラッペルも可能)、歩きにくい沢を降りて終了。帰りはそのまま沢を降りたが、堆積した落ち葉の下に空洞があって足がズボットはまり、岩に脛をすりむく、みたいなのが何回もあって心底うんざりした。林道に着く前にヘッ電の出番となった。

【感想】

全体に岩そのものは硬いが、プロテクションが取りづらく、たまにあるフレイクはだいたい浮いていてガッカリする(よって、全体に硬いとはいえ、ホールド・スタンスのテストは必要)。4ピッチ目のランナウトに耐えてリードできるツワモノがメンバーにいれば、楽しいルートだと思った。木戸壁カンテとか毛無岩の烏帽子岩頂上よりもトータルのクオリティは負けていない。特に、5~6P目が写真映えしてなかなか楽しい(側稜や主稜の岩稜登りは人気が出るかもしれない、行ってみる価値はありそうだ)。

その4ピッチ目、一度行ってしまえば「立てばカチ・ガバがお迎えしてくれる」と分かっているのでランナウトに耐えられると思うが、オンサイトだとなかなかのプレッシャーになるだろう。一切事前情報がなかったイサミのプレッシャーたるや…。

主稜と合流する6P目以降はクライミング的な価値は低いので(もちろん山登り的な価値はある)、下降に入るのがスマートだが、同ルート下降だと4ピッチ目の下降で稜上の浮き石を巻き込む可能性が高いため、6ピッチ目まで登ったら1ピッチ同ルート下降して、その後はコルっぽい所あたりから、主稜と側稜の間の沢に降りて下山するのがいいかも知れない。



取り付き。右上の大木にピンクテープが巻かれており、そこを目指すが...



10m+50m 一杯でギリギリ大木に届かず。



2025年7月の3ピッチ目に合流（こちらも3ピッチ目となった）



4ピッチ目、垂直に近い傾斜でランナウトに耐える丸ちゃん。岩が硬く、ホールドがポジティブなのが救い。



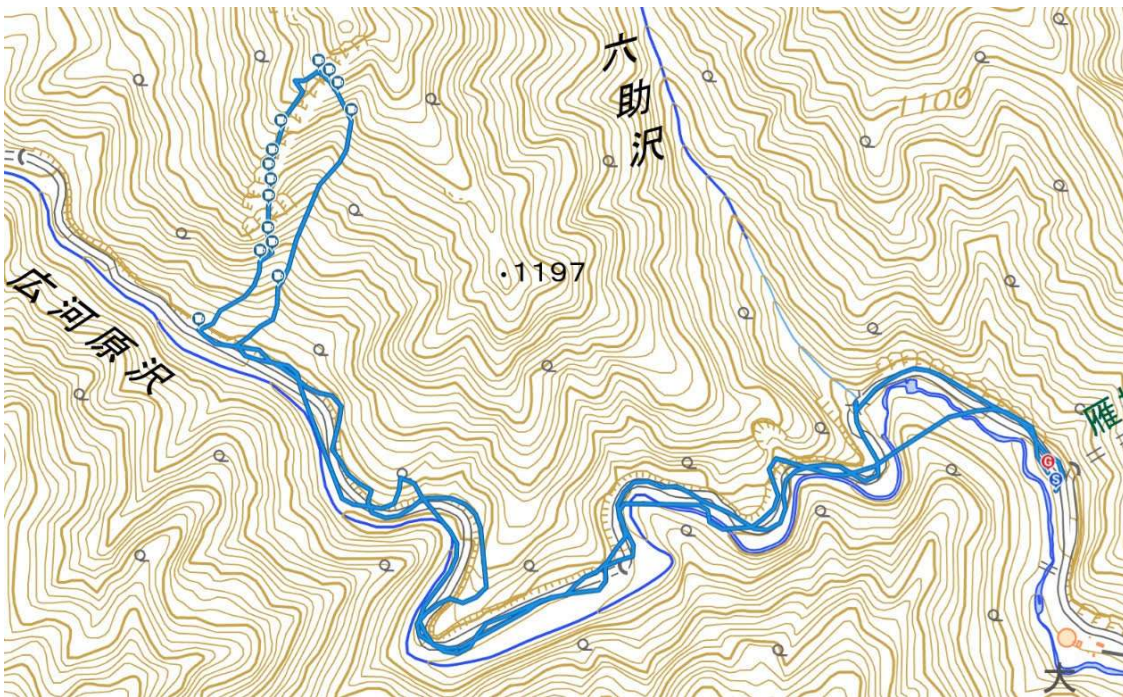
5ピッチ目の岩稜。左の谷底の巨木から伸びてくる枝が若干鬱陶しいものの、快適。



4ピッチ目でビレイする丸ちゃんを撮る。なかなかの絶頂っぷり。



5ピッチ目をフォローする丸ちゃん



YAMAP ログ

[山登魂 HP](#)へ

[山登魂 HP \(記録一覧\)](#)へ